

マリモ展示観察センターの歴史と目的

1897年に発見されて以来、マリモは日本人の心を魅了してきました。マリモ展示観察センターはマリモの保護と持続可能な観光事業を促進する目的でチュウレイ島に1978年に建設されました。1960年代から観察施設は繰り返し拡張され、簡単な屋外の水槽から小さな池へ、そして1995年から始まった完全なるリノベーションを経て、現在の屋内観察センターへと移行していきました。

マリモの保全活動は阿寒湖の西側と北側にあった2つのマリモの生息域が消滅した1950年代に開始されました。1920年に導入された水力発電機や劣悪な観光事業、木材輸送事業などがこれらの生息域の破壊に起因していると考えられています。阿寒湖に輸送された木材により湖の堆積物が異常に増えたことに加えて、水力発電機の影響で水位が著しく低下したといえます。さらに、無秩序な観光客船の増加により、マリモをお土産として持ち帰る人々や販売する人々が増え、湖に生息するマリモの個体数に悪影響が及びました。

これに伴い、持続可能な観光事業の必要性が保全活動団体や地元の人々に認識され、湖からマリモを持ち出すことの禁止やチュウレイ島での観察センターの建設、船がマリモの生息域に入らないようにするなど、植物保護するための活動が始まりました。

観察センターの目玉の1つは様々なサイズのマリモが展示されている巨大な水槽です。小さな水槽には様々なマリモの形態が展示されており、その形成から消滅までのサイクルを観察することができます。

このように、マリモ展示観察センターは重要な役割を果たしています。湖のクルージング、施設内部の水槽、水面をライブ映像で映し出すスクリーンの活用などには、より深く阿寒湖の自然環境を理解してもらうという目的があり、観光客が生息域を傷つけることなく、マリモを間近に見ることを可能にしています。